

授業改善書

科目名	日本史資料講読(近現代)
担当者	福島良一

授業の概要

本講義では、明治の代表的啓蒙思想家であった福沢諭吉の『学問のすゝめ』を読んだ。福沢は国民に批判精神の意義を訴えつつ、国家の独立にとって国民の自立性が不可欠であるとの立場から、学問の重要性を説いている。こうした福沢の思想は、深い洞察力と主体的な判断力が求められる今日のわれわれにとっても、示唆に富んでいる。授業ではテキストの精読を通して、学問と教養を備えた人間の生き方について考えることに力点を置きながら講義した。

なお、この講義は文語体の文章に読み慣れることをも意図しているため、授業においては受講生に音読してもらった上で、解説を加えていくスタイルをとった。

授業の問題点

授業内容や方法等についての各項目の評価点はおおむね4点を超えていたが、板書に関する項目のみ3.68であった。板書の量が少なくノートしにくかったことが理由と想像される。これと連動していると思われるが、授業への学習態度にある「ノートを取りましたか」の評価は3.26と低かった。また授業外学習(予習や復習)は3.91と3点台に留まった。事前にテキストを読み込んでくるように予習の必要性を強調したが、受講者全員に徹底されていなかったのであろう。

授業改善の課題・方策

福沢の『学問のすゝめ』は、人間や社会を見る眼を養い、現代人の生き方にヒントを与える内容の文献資料であることから、受講生は興味深く話を聞いていたように思う。課題は、板書の改善によりノートを取りやすくするといった技術的な点にあるようである。今後は、ノートしやすい丁寧な板書を心がけていきたい。ただし、大学の授業では板書されたものを書き写すだけでは十分でなく、自分で重要だと思うことはメモしていく習慣を身につけることも大事である。このことも併せて指導していきたい。

授業外学習については、シラバスで特に予習不足の場合は「減点」の対象とすると明記しているが、予習の励行が十分でない学生にはその都度注意を促していくこととする。

その他